

比較文化特論演習

2 units (selection) 1st-year(2nd semester), 2nd-year(2nd semester)

Ryuji Yorioka · PROFESSOR / FUNDAMENTAL STUDIES, REGIONAL SCIENCES

Target) 比較文化的方法の理解と、グローバルな文化事象にアプローチすること。

Outline) 「比較文化特論」の内容を受けて、ドイツ文学ならびに比較文学をベースに、比較文化的方法で現代文化について学際的考察を試みる。文化研究のあり方自体を反省的に問いかけつつ、個別文化・個別ディシプリンを、その関係性において捉え、異なる視点から相対化しつつ、比較考察し、普遍的文化現象にアプローチしていく。具体的には、日欧関係のなかでも、近代以降、特に日本と関係の深かったドイツ語圏と日本との関係を中心に、外からみた日本を概観してから、地域性における文化の影響関係と交流の在り方を、「地域性」と「国際性」をテーマとして考察する。地元徳島における文化交流についても考えてみる。

Keyword) 比較文化, 文化交流, 異文化理解, 近代化, グローカル

Fundamental Lecture) “比較文化特論”(1.0)

Goal) 比較文化的方法を理解し、個別文化・個別ディシプリンを、その関係性において捉え、異なる視点から相対化できるようになること。

Schedule)

1. ガイダンス
2. 序論「地域性と世界性」
3. 同上
4. 地域からつながる世界～ 四国を例に (板東俘虜収容所跡の見学を含む)
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 「地域性」をめぐる対話～ ギュンター・グラスと大江健三郎
10. 同上
11. 同上
12. 戦争をめぐる対話～ 日本とドイツとの比較を中心に
13. 同上
14. まとめ, ディスカッション
15. 総括

Evaluation Criteria) 出席状況と授業への積極的な参加を前提として、レポートの提出による。

Re-evaluation) 有り

Textbook) 教科書は使わない。教材は適宜、授業中にプリントなどを配布する。

Reference) 依岡隆児『読書のススメ～ 四国から、グローバルに～』(徳島新聞社)

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218183>

Contact)

⇒ Yorioka (1308, +81-88-656-7143, yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(Office Hour: 火曜日12時から12時50分まで)